

算数・数学部会

松尾 好樹

中学一年生はなぜ分数ができないのか

つまりはどこか

ある日の算数・数学部会で、中学一年生は分数ができない子が多いという報告があった。

「1.5を分数にしなさい」は約分忘れも含めると半数くらいが、「 $3/4$ を小数にしなさい」は2割以上が誤答であった。割り切れないわり算の答えを分数で表す問題も誤答が多かった。3割くらいができていなかった。

計算では分数どうしのわり算（2割以上が誤答）、つぎは分数に整数をかけるかけ算、つぎが異分母の足し算の順に誤答が多かった。

討論では、「『分数とは何か』がわかっていない。計算（技能）は教えても『分数とは何か』を教えていないのではない

か。また、『分数がわかっていない』は小数もわかっていない。そしてすべての領域で技能（計算）だけの指導になっている」という意見が出された。

「分かるようになったか？」を把握しないまま、習熟度別の授業で進度をそろえることのみに力を注ぎ、落ちこぼしていつているのではないだろうかという指摘もなされた。

ある日、私の教えている大学の授業で、机間巡視中「この問題はどこが間違っていますか」という質問をした学生がいたが、見ると、分数のたし算で、おかしい計算をしていて間違っていた。私はおどろいたが、学生のプライドが傷つかないように教えたことがあった。また、8進数や16進数の記数法の試験で、整数にかかわる問題はよくできているのに、分数

や小数を使う問題になると、てき面にミスが増えるのである。

かつて、「分数のできない大学生」が話題になったが、今もその気配を感じている。小中学校で分数をしっかりと理解していないままだと高校や大学生になってもそのままであろう。

楽しく分かる算数・

数学教育をめざして

いわゆる「ゆとり教育」時代の学力低下・教育低下のツケは大きい。

反省のない文科省の責任は重い。新しく始まった新教育課程での数学教育でも先生方の現場での悲鳴が聞こえてくる。

「こなすのが大変」と。

今、算数・数学部会では「新教育課程のもとで新教科書を使って教えてみてどうだったのかを集約し、問題点・課題を明らかにしよう」ということをテーマに研究を深める方向である。

そしてこの研究が楽しく分かる算数・数学教育につながるようにしたい。

（共同研究者）